

り（夫婦関係、離婚）。/性感染症の相談から更年期の時期をむかえ男女の関係についての相談にかわり、数回相談がある。/抗体検査ではなく、ウイルス量を検査することで、感染機会から1カ月程度で感染の有無がわかる方法があると聞いたが、そちらの保健所でできるのかとの質問。/2年前に医師が相談に応じた方が、医師不在時に突然あらたな相談のため来所。保健師が対応したが、湿疹に対し、AIDSか梅毒かの診断的なことを求められたり、性行為ではないが歯科治療での感染の可能性を聞かれたり、対応に苦慮。/HIVは空気につれるとすぐ感染力を失うとあるサイトにあったが本当か。/風俗店の女性は、すべてHIV検査実施しているのか。→検査状況については不明である。感染防止のためコンドームを使用すること。/保健所の検査での陽性者の人数や陽性率を聞いてきた場合、どう答えたらいいか困った。/風俗でおしぼりに射精したが、HIV養成者の精液がついていて感染しないだろうか。HIVウイルスは空気中でどの位生きていられるか→HIVウイルスは空気ですぐに死滅するものではなく、ウイルス量により違いがあり、何分とは言えない。たぶん心配ないと思われるが心配なら検査をと説明したが、十分納得しなかった。/耐性ウイルスとは何ですか。エイズに関係ありますか。/〇〇する行為は100%大丈夫か?と100%を繰り返し問うタイプの方。説明してもなかなか納得が得られなかった（30代男性、来所）。/「100%の予防法がないなら、どんなハイリスクなことをしても同じ」と話し、ハイリスクな行動を続けると宣言された。/パートナーが感染者でそのパートナーを支える相談者であった。相談しながら、自分が無力なことを痛感した。/(検査結果が陽性だった場合)3か月以内に複数と性行為をあったが、誰から感染したと考えたらよいか。→誰からの感染かを知ることが優先課題ではない。性行為のあった者へ検査をすすめることが大切である。/「~の行為をしたが感染するか?」~の部分が「フェラチオ」、「クニグス」などの感染率を問う質問。

1-2パートナーに対する相談への対応 (3%)

回答例：夫は昔、風俗で性感染症（淋菌）に感染したことがあり、検査を受けたがりません。自分がHIV抗体検査を受けて陰性であれば、夫もHIVは陰性と考えて良いか?/「事例として」困った相談というのではない。「夫の性病の検査してほしい」というふうな対応に困った相談はあったが。/妻がクラミジアに罹患、原因は自分だと思ったが結果は陰性。どうしてだろうか?/匿名であるが明らかに夫婦で検査にきて、配偶者の一方のみが陽性を示したことに対する相談。/夫の浮気の連続により、自身が感染しているのではないかとの相談、受検。夫との離婚についての相談等もちこまれたこと。/ホストをしている彼がSTIであることを友人から聞き、受検した10代の女性。結果が陽性の上、メンタル疾患があり、結果を聞いて精神的動揺が強く、結果後に時間をとって面接をした。

②不安のある人への対応 (33%)

回答例：不安のある人への対応は回答数の多い順に、①極度に不安のある人への対応②エイズに感染していると思いついでいる人への対応③エイズ不安症・エイズノイローゼの人への対応の3点に分類された。

2-1極度に不安のある人への対応 (24%)

回答例：不安神経症的事例。自分の陰性結果が信じられず、検査行程を疑ったり、方法を疑ったり、ウインドウピリオドを疑ったり、抗体(-)でも抗原(-)と言いきれるのかと繰り返し返したり、保健所内の2部署に頻繁にTe1してきた人がいた。/HIV検査を受け、陰性という結果を伝えられたものの、なお感染不安をくり返し訴える。/感染を受けたかもしれな

いという時から検査までの期間が、12週未満であるにもかかわらず、本人の感染不安が強くだうしても検査を受けたいという希望が強い時、一度検査し期間が空いての再検査を勧めても受けてくれない。/HIV郵送検査で陽性になったと保健所の検査に来所。結果は陰性だったが、信じることができず、数回再検査。大学病院でも検査をし、陰性。本人が納得するまで数回面接をした。/身体の不特定愁訴あり、それらがSTIのせいではないかと心配している人で、相談が頻回で、検査して陰性でもまだ不安が解消されない場合。(強迫神経症の人もいた)/感染に対する極度の不安があり、強迫神経症様の相談をくり返すケース。/感染不安の大変強いタイプの人。検査結果で(-)が出ていても納得できない人など。/検査結果「陰性」と聞いても、不安や心配で何度も来所やお電話される方の対応。/スクリーニング検査何回受けても(+)で確認、検査は(-)。本当に大丈夫か?/糖尿病があり全身の搔痒感を訴え、AIDSに感染しているのではないかと不安があった。検査で陰性であったも信じられず繰り返し不安を訴えた。/何度も検査で陰性が出ている人が、それでも心配で、何度も電話で相談希望と言ってきた。/不安神経症の様なケースで、検査結果を伝えても納得せず、検査をくり返す。/検査を受け、陰性とわかっている人が、それでも心配なので再度検査を受けたいと何度も電話が来た。微熱やリンパの腫れがあると訴えており、医療機関で診察をうけたがHIVは否定された。それでも結果を信じるできないというケースがいた。/「陰性」という結果を渡しても信じられず「この結果は本当に正しいのですか。」と繰り返し聞いてくる。/保健所での検査受検時に、感染した可能性はないか不安の強いケース。(複数回に渡り、電話相談があった。)/精神的に不安が強い人が目立ち、検査の陰性結果が受け入れられない。

(HIVの専門相談や心療内科をすすめたりするが、実際つながっているのか不明なので、気になったままとなる)くり返し受検する人も少なくない。/検査を繰り返すケース。/感染を心配し、短期間に何度も検査を受けに来たケース。/術後処置の際の感染について不安をもっているケース。神経症的にあり度々相談があり、感染機会から3ヶ月後に、HIV、B肝、C肝、梅毒の検査を受け、npであったが、さら他のほとんどリスクのない出来事が心配となり、検査希望が生じている。/「20年以上前の性的接触でうつったのではないか。」と心配でたまらず、一日に何度も電話してくる。検査を受けて「陰性」となっても納得しない。/検査の結果「陽性」と出たことが信用できず何ヶ所かの機関で検査している。さらには検査方法の信用性を立証するデータを見せてほしいと言い、不安感が消えない受検者。/妊婦の方、産婦人科で血液検査を受け、HIV検査(一次検査)で陽性と云われた。偽陽性の説明もあったが、納得できない。→検査の精度(保健師)を話すより更に所内の医師に対応してもらい、不安の解消はできた。/検査を受けた人が、後日電話で検査結果が自分のものかどうか信用できないと再々電話で相談してきた。/採血ホルダーの再利用からの感染を心配し、新しい箱から出すところからチェックしたいという希望があった。/迅速検査の信頼性について不安を訴える相談があった。/クラミジア抗体陽性で医療機関に紹介したケースが、医療機関の説明に納得せず、再検査に来所した。/HIV(+)が献血で判明したが、本人が納得できず医療機関や保健所等へ相談にくるが、定期受診に結びつかない。/他の検査機関の結果を持参し、相談されること。/医療機関、保健所の検査の信頼性。/検査を受けられた方から、後日電話がかかり、陰性だと説明を受けたが、検査が正しく行われたのか、本当に正しいのか、との問い合わせが何日も続けて電話があった。/検査の結果が陰性なのに、症状(なんらかの)があることで、結果を信用しない。/検査結果について、来所して「陰性」と聞いているが、その有

効性について何度も確認してくるケース。/検査後面接：検査結果が正確であるか、自分のものであるか、くり返し聞いてもなかなか信じない人の対応が困った。/感染確率について「それは絶対か。本当に言い切れるのか。」という質問。/感染不安が強く何度検査、相談をしても不安が解消されない。精神科の受診が必要なケース。/感染の可能性の話。接触の程度を述べ、何%感染するか数値を求められる。限りなく0と思われても不安のため、質問がなかなか終わらない。ゼロであるといってもらえれば安心するようだが、当方もゼロとは言えない。/感染の不安が強く、近隣の保健所にも何度も電話してきた男性。抗体ができるまでの間、検査を待つように説明をくり返すが、早急な検査実施を希望。/感染不安が非常に強く、何度も受検する人、ウインドウ期を過剰に気にする人がいた。/不安感が強く、検査予約日まで待てないと訴える事例。(特に土・日を挟む場合) /県内の保健所抗体検査をはしごして回る20代男性。受検したHCで、抗体検査の意味、検査の精度、陰性の意味などを何回聞いても信用できないらしく、受検後もほぼ毎日のように数回に渡り、結果は信用できるのか、等、問い合わせしてきた事例。/神経症傾向のある方の対応。ちょっとした(感染の恐れのない行為)ことで不安になり、説明しても納得してくれない。/心配な行為があつてから2~3日後の方で、HIV感染への不安が強い方の対応。ウインドウピリオドの説明をしても一刻も早く感染しているかどうか知りたいと訴えられた時に困った。/精神的に不安が強いタイプへの対応には時間がかかり、(なかなか納得してもらえず)返答に困難を感じた。/精神的に不安定な来所者であり、エイズの不安が強く、検査後も何回か電話対応を行った。/不安神経症の人への対応、リスクがないことを説明しても納得してもらえない。/感染不安が強く、検査結果を一刻も早く知りたい、何週めになれば抗体が血液中に現れるのか、と繰り返し電話相談してきたケース。/検査をうけたあとに、検査当日の採血時の手袋、針など他の人と共有していないか毎回変えているか、血がついていないかなどの相談が4~5人位あった。中には何度もt e l相談してくる人、来所する方などもいた。それから、手袋は毎回変えて実施している。精神科受診をすすめた人1人あり。/検査をするまで何度も電話をしてきて、検査で陰性になったあと同じ行動をくり返し、不安になって又何度も電話をしてくる。/30年前の出来事が心配でしようがない。申出者に抗体検査をすすめるが受検する気はなく、長時間に渡りただ心配であることを主張する。(こちらの説明を納得していただけない。) /大変心配し、もんもんとしていた時。/不安の強い人が毎回同じ内容で相談され、来所を促しても来られない。/若い男性からの相談。前日にファッションヘルスに行き、本人の知らない間に性行為に至った。あわてて中断したが、HIVに感染していないか心配でたまらない。インターネットで調べても感染率は低いが、自分も感染していないとしつこく同意を求めてくる。同様の内容で2~3日続けて電話をかけてきた。

2-2エイズに感染していると思い込んでいる人への対応 (6%)

回答例：HIVに感染しているとの思い込みをしている方。/検査前に自分が感染していると思い込み、大変不安が強かった人。/受検者自身がHIV陽性であると信じ込み、陰性結果を納得で検査方法、採血量への不信感、検査現場をみたい等延々と質問が続いた(メンタル的な問題もかかえていると思える相談者への説明の難しさ)。/自分はぜったいにエイズと信じていて、不安で何度も電話してくる。/自分は病気だと言い張って話を聞かない。/精神疾患があり、自分はエイズと思い込んでいる事例への対応。/陰性である検査結果を信用してもらえない。「保健所はうそをついている」「自分は絶対に陽性である」など。/<30~40代女

性からの電話相談>「H I Vに感染している」と泣きながら以下について話す。娘と2人暮らし。生活が非常に苦しく、明日家を立ち退かないといけない。倦怠感、体重減少等の症状があり、最近口腔カンジダ発症。かかりつけで治療を受けているが、対応が悪くなってきた。おそらく病院で血液検査をして、H I V感染が判明したので、あまり相手にしたくないのだと思う。(実際に検査をしているかは不明)娘に同じピアッサーでピアス穴を開けたことがあるので、娘にも感染していると思う。最近、やせてきている。自分はどうなっても構わないが、娘のことを思うと不憫でしょうがない。もうすぐ専門学校に進学するが、病気のことを考えると素直に喜べない。→傾聴し、保健所に相談したことを評価。相談者の思いに寄り添いながら、H I Vに関する説明、それ以外の問題に関しても紹介等できることを伝えるも、全てにおいて否定的であり、「自分はH I Vに感染している」と信じ込んでいる。最終的には、相談者が電話を切って会話終了。その後、連絡はない。/検査を受け、陰性の告知を受けても、「自分は感染している。」と思い込み、何度も相談に訪れる人がいた。/自分はH I V (+)だと何の根拠もないのに思い込み、検査を受けたが結果を受け入れられない。/病院で注射をうけて、それで感染していると思いこんでおり、苦情を延々と話す。結果(-)だと納得できない人。/幻覚・幻視があり、H I V感染が起これないのにH I V感染をしていると思いつ込んでいて、検査で陰性になっても不安が解消しない。

2-3 エイズ恐怖症・エイズノイローゼの人への対応 (3%)

回答例：エイズ恐怖症の方の頻回な相談。/エイズノイローゼと思われる20代男性。についているかいないかの経血、膿粘液のついた指で、のどの奥のキズについたら感染しますか？母乳だったらどうですか？キズの大きさは関係しますか？本当に本当に大丈夫ですか？確率はどうですか？等々、自分の考えた事を細かく問い合わせをしてくる方。数週間にわたって問い合わせのT e lがあった。1～14回/日あり。他の業務に支障がでそうになった。/エイズノイローゼの人への対応。/検査結果が陰性であっても「エイズ神経症」のような状態になり、指先にけがをした等のできごとでも心配でたまらなくなって、何回も検査に訪れる人が何人かいた。/検査を受けて陰性という結果が出ているにも関わらず、検査結果を信じられず、「こんな症状があるのでエイズではないか」と繰り返しT e l相談をする。エイズ不安症候群に対する対応。/<エイズノイローゼと思われる事例>いくつかの保健所や電話相談に何回も相談している。一度風俗に行き、指を性器に入れた等。/エイズノイローゼの人。

③いたずら、同一人物によるからかいのような質問内容に困惑 (26%)

回答例：「性感染症のことで相談したい」と電話をされるが、内容が拡がっていき(自慰行為は良いことか？風俗店の利用はだめなのか？等)長時間の相談となる。また、同一人物と思われる人が「初めての相談なんですけど」と同内容の相談をされる。/「風俗店で性行為はないが感染の可能性はあるか」「自慰行為で性欲をコントロールし風俗店に行かないようにするには問題ないか」具体的な性的描写をまじえて話すことから、本当に心配で相談しているのかどうか、イタズラではないかと思われる内容があった。/H I Vに関する相談でなし。明らかにイタズラを目的とした内容の電話が多々あること。/①興味本位のいたずら電話。感染経路である性行為の具体的表現を聞いたがる。その場合は思春期相談の担当に電話を回したいが、専用回線電話のために回すことができない。/H I V相談をよそおい、自分の性癖を語りたがる相談者がいる。いたずらの場合は相談を打ち切るが手口が巧妙になっている。/イタズラか相談か判断しがたい内容：感染経路の行為を説明する時、感染の心配があり知り

たいのか、保健師に単語を言わせただけなのか分からない。目的のはっきりしていない時。
/いたずらか否か不明者の対応で苦慮（区別がつけられない）。/いたずら電話との判別がつかない相談があった。/いたずら電話かと思われる例があった。/エイズ電話をよそおったいたずら電話。/エイズ予防等や検査についての相談でなく、不必要な内容の話で電話をかけてくる者が何件かあった。/同じ声の同じ人が、毎回同じ内容の相談をしてくる。「以前にもお電話いただきましたよね。その時お話したとおりの…」と話しても、全く無視し同じ質問を繰り返す。/同じ人物と思われるが、同じ内容で何度もTELをしてくる。「温泉やトイレ、腕時計の共用で感染しますか?」/同じ内容の質問をくり返したり、スタッフの個人的なことを尋ねるなど、イタズラ目的のような電話をかけてくるケース。/感染の心配だけでなく、自分の性癖について（風俗にいきたい。3人以上で性行為をしている等）どう思うか?と問われるケースへの対応に困りました。/最初はエイズの相談で感染経路について答えていたが、途中から真剣なのかいたずらなのか性癖についての話を言われた。何が心配なのか不明であった。/自分の性行為の手法をこと細かに説明し、こちらが話を整理しながら心配な点について相談にのろうとしても、また話が脱線してしまい本当にエイズの相談をしたいのか、自分のSEXの話をしたいのか判断に迷うケースがあった。→こういうケースは話をしている、性的興奮を得ることを目的にしているケースが多くあるが、そうなのかどうか判断できないようなケースがたまにある。とりあえずは傾聴後、アドバイスや検査をすすめて対応している。/性交渉の時の様子を具体的に話され、感染するかどうかしつこく質問された。/性用語を何度もくり返し使い、同じ内容で電話してくるリピーターあり。/男性30代ぐらいの方から「あなたのことが好きになりました。会えませんか?」と言われた。「そういう電話にはでない。」と断ったが、本人は聞く耳をもたず。どのように対応すべきか悩んだことがあった。/何度本題に戻してもわいせつな話をされる中年男性がいた。一応相談の内容も話されるため途中で面接が切れず、困った。/興味本位で電話をしてくる人。/性行為について具体的に細かく話し、結局何を相談したいのか分からない。性器の名称を女性保健師に言わせようとしたり、何を相談したいのか分からない。相談なのかいたずらなのか判断に迷う内容の電話があり、返答に困ることがあった。/相談を受ける者に卑猥な言葉を言わせようとするような内容の相談。/電話による性的嗜好についての相談中に、相談者が性処理を始めてしまった。/電話や来所の相談で女性職員に故意に「膣とは何ですか」「膣分泌液は何と読むのですか」等、性的な質問をくり返してくる相談者がいる。/電話相談：声、話の内容から同一人物と思われる人が同じ内容で何度も電話してくる。明確にいやがらせとは思われない時もあるが、その判断が難しい。/電話対応で意味不明な内容の質問があった（興味本位の内容等）。/同一人物から本当に悩んでいるのか、いたずら電話か判断しかねる同じ内容の電話相談が数回あった。/本当に相談なのか、からかいの相談なのか判断に困ることもあった。/性的な行為について、詳細にききたがるなど真剣な相談とは思えないものがある。/妻と夫（相談者）と夫の友人と3人で性行為をするようになった。複数で行う性行為について、くり返し相談がある。/「例えば…」と具体的な行為を1つ1つのリスクの大きさをくり返し聞いてくる。/<相談から性的関心が高まってしまう事例>援助交際について話し、感染の可能性を心配した後、「○○○と言って下さい」等セクハラ発言を行う。/検査を受ける前に「どういう状況でコンドームを使った。大丈夫か?」等、様々な細かな場面をあげて、感染の可能性について確認されたこと。/執着気質の男性。相談員に若い女性を、と指名し、性行為について微細に語り相談に乗って

もらいたいのだという。時間帯や代表電話、相談専用電話と回線を変え、何度もT e l、来所あり。/あきらかに相談ではなく性的な発言をくり返し性的欲求を求めてくる。/いたずら電話のような相談。いろんな性行為を長々と説明して感染の危険性を尋ねる。/インターネット、通販で購入する性に関する用具が低俗、悪質で相談と思いつつ不快な嫌悪感が続き相談がきつい。/すべて男性の相談者から女性保健師に対してであった。/相談というよりも、性に関する話題を職員と楽しんでいるフシのある相談者が多かった。/電話での相談の最中に、性的な言葉等に対して、自ら興奮してしまい（相談の始めは真面目な様子だった）相談にならなくなったケース。/特定の職員への相談を希望する人がいる。/特定の保健師に執着するケース。/何度も同じ内容の相談をされる方がいて、相談なのか、性欲解消のためのいたずらな相談かどうか不明で対応を迷ったこと。/近親相姦の相談を何回もTEL相談を繰り返すケース。/性的な話題でこちら側の返答を伺ってくるような事例。/「小学生だが、性感染症について知りたい。」というイタズラ電話が多かった。/30代男性：飲尿癖がある。感染危険性について具体的に教えてほしい。やめたいと言いつつ改めようという意志は薄い。性癖についての話を聞いてもらうこと自体に快感を持っている印象がある。/電話相談者テレクラと勘違いしているのか言動に問題のあったケース。/本当に心配で相談しているのかいたずらなのか、のらりくらりとした話に判断がつかねる。/相談が匿名であることから、あらゆる係に相談をしているケース（リピーター）性的な相談がいたずら電話であるケース等。/<異常な性交や検査等における色々な確率を求められる事例>「この検査を受けて100%ないと言い切れるのか」「この行為では感染する確率は何%なのか」等。/風俗の利用に際して、具体的な行為をどうしたらよいか何度も確認されたとき（中年男性、電話）。/高齢男性でコンドーム着用について説明しても受け入れることなくご自分の性癖を語り始め、相談にならなかった。/電話相談対応のケース（中年、男性）。自分自身の性行動について不安を持たれており、検査をすすめると自分自身の性行動を具体的にリアルに説明することに執着され、検査の説明についてさげようという姿勢があったケース。

④精神疾患の可能性のある人への対応（15%）

回答例：20代男性：不安神経症で入院中であるが、電話来所相談をくりかえす。同室の人との食事や接触により感染するのではないかとのとらわれで、知識の確認だけでは対応できない。主治医への相談をすすめても不安が解消できない。/精神科で治療中の相談者。若いスタッフに対し、性器の形が変なのでコンドームの付け方を実演で教えろと迫られた。ほかのスタッフや医師に交代すると話題をかえた。/妊婦の方が時々、H I V検査に来所（産婦人科からの事前連絡なし）産科にて陽性と言われ、保健所を紹介されたとのことだが…。精神的支援が必要（かなりの精神的負担を抱えているため）。/7年前に他保健所でのH I V検査にて陰性であったが、不信感で精神科を受診した。入退院を繰り返して現在も心療内科受診中。仕事はできている。6年来の彼女にインポテンツであることを打ちあけられない。エイズのカウンセリングを受けたい（性的相談を含めて）。→男性の性的相談対応について（当係は性感染症相談窓口である）ネットのED相談を紹介する。/うつ病治療中など精神疾患をもっている場合。/精神疾患治療中でH I Vについてがテーマとなり何回も同じようにTEL相談する。/精神疾患で精神科受診歴のある方が、同じような内容で何度も相談にくる。精神疾患治療中の方の相談が増えている印象あり/精神疾患による妄想のため、性感染症の相談を具体的に進められず、困難を感じた。/精神疾患のある方が、自分と接点があった（話をした位）方々を

エイズに感染しているので、保健所から検査を受けるよう指示してほしいと何度か来所した。/精神疾患をお持ちの方が繰り返し相談をすること。(障害者支援担当者と連絡を取り対応。)/精神的な問題を抱えながら、繰り返し検査を希望するケース。/必要以上に心配に思っている人への対応。(精神疾患をもっているようであった。)例として、「精液と筋トレの間に関連はあるか」「バスに落ちていた食べかけのパンをさわったが、AIDSに感染する可能性はあるか」等、細かく聞いてくる。/一つのことが気になりだしたら止まらないといった意味での偏執的な傾向を有する明らかに精神疾患のある方(男性)から通年、不定期でHIVに関する様々な問い合わせがある(c f、HIVにはIⅡ以外にⅢ以外もあるのかe t c)。本人がHIVのことについて聞きたいとしている以上、同じ保健所内でも精神担当に代わってもらうわけにもいかない。/精神科受診歴が明らかにあり、相談・検査後の対応を望んでいるケース。/精神科領域の疾病があると思われる方への対応。検査の採血をしたことによって、新たに心配が増えたと何度も質問、相談有。/精神疾患follow中の受検者への対応。/精神疾患患者と思われる受検希望者から、予約を入れているにもかかわらず何回も電話があり、その都度説明を繰り返すもなかなか理解が得られなかった。/精神的疾患をもった方が検査結果では陰性であったが、説明しても不安等あるため理解してもらうのに苦慮したため、保健所長に説明していただいたところ、安心されたという方がおりました(年2回位、検査を受けておりいずれも陰性でした)。/相談専門ダイヤルに同一人物と思われる人から何度も同じ様な相談内容でかかってくる。いたずらとは思われない話し方でどちらかと言えば精神疾患の疑いも考えられるが、どこまで介入すべきか判断にまよう。/明らかに被害的にとらえ、メンタルとわかる相談があった。そのために面接に時間がかかり最終的には精神担当にひきついで(本人の了解を得て)。/精神疾患治療中というケース—行動や感情に波があり、相談相手は医者以外信用できないという希望があったため保健所長が対応したが、検査後結果の受け取りに来なかった。/相談者がうつ病等で治療中の方で不安が強く「エイズに感染していたら自殺する」と訴えメンタルケアをした。結果(-)。/<エイズの相談と元来のうつ病が合併している事例>心配が頭から離れない様子で相談が完了できない。泣き出してしまう等。/心療内科に通院している中高年女性の相談。スタッフに医師がいることで来所した様子でエイズや性感染症には関心はなく、体調不良を一方向的に訴え続けた。/強迫神経症のある人のHIV感染不安者。/不安神経症の方が、保健所で検査を受けたことで、感染を受けたのではないかと等、同じ相談を何度もされることがあった。/メンタルな問題をもつ方の感染不安への対応。/感染リスクとしては非常に低い行為であるが、体調が悪いからと精神的にノイローゼ状態での相談。/検査目的の申し込み来所であったが、突然検査拒否になり、職員への質問責めにあった(精神的に不安定にたっている状態が見られた)。/知的障害者の受検者にその保護者(?)が同行したが、本人の理解を得ずにHCに連れてきた。本人は何のために来所したのかよく理解できない。問診にもその保護者が同席し、本人のプライバシーに関する聞きとりが非常に難しかった。/心配なことがあって3カ月以上たった段階で数回検査をし、陰性が判明しても感染不安が残るケース。(本人は精神科受診中)/メンタル面の疾病があると思われる女性からの相談で、1日に何度も10分間おきに同じ内容の相談があった。既に検査で感染はないとされているが、婦人科と当所に電話をかけていた。/エイズ不安があり、多数の相談機関を利用している方への対応。(精神科等への通院中の方等)

⑤施設・時間等、環境面での困難(14%)

回答例：NPOとの共同で行った休日検査で、予定を上まわる受検者があり、スタッフが不足して十分なカウンセリングができなかった。/休日、夜間検査の希望者にはおことわりをした。/コマーシャルでいつでも検査できるような内容なので、検査日以外に来所され困った。/指定検査日以外に来所し、検査を希望したこと。/平常の業務時間は常に検査が受けられるようにして欲しい。/夜間を増やして欲しい。/京都市としては、検査日がすべて午前中のため一部午後の実施日を希望された。本庁に要望をあげますと返答。声をあげたものの、各事業所の都合で実際は改善できず。/性感染症のすべての検査をしたい。総合HPの女性外来を受診したが、検査にむすびつかなかった。性感染症専門病院を紹介して欲しいということだった。話の様ではDVが疑われた。精神面を含めてケアできる専門機関が近くにないため困った。/陰茎にブツブツとしたできもの(+)泌尿器科受診し、皮膚科紹介され受診を受けるが、治療等の指示なし。その後1年程度経過するも変化なし。現在も気になっている。「一度患部を診て欲しい」との要請あり。(プライバシーの保護・相談場所・診療場所として不十分・医師の不在等)/電話相談の場合、電話相談のための部屋があるわけではなく通所の事務室で行っている。このため性に関する単語を話しにくいことがよくある。/他人の母乳を飲ませたことでHIV感染を心配し、乳児を連れ検査希望の母親がいた。乳児は受けつけていない旨を話し断った。/HIVとB肝とC肝の検査は同じ日に受検できるが、感染不安の方と輸血等での被害的な思いを抱えて来所する方が同時に来所することは対応に困ることがあった。/受検者が受付事務の人と顔見知りだった。守秘義務を説明し、個人情報もれることはないことを説明したが検査は受けず帰ってしまった。/透析を受けていた医療機関でHIV(+)AIDS発症が判明し、遠方の神戸市内の病院へ入院した。退院後再度透析の治療を前の医療機関に依頼したが、HIVという理由で断られた。/来所者が多いときは待ち時間が長く、プライバシーに配慮した相談環境がとれず、苦情があったり、待てずに帰った人もいた。/陽性者に対する福祉制度の紹介をしたところ、その窓口で氏名を言われ困惑したとの事。他県の窓口の情報があればもっと丁寧な対応ができたと思う。/現在検査を2人の枠で予約を入れているが、30分も待たされたと怒り、どなって文句を言ったがおさまらず。採血後、事務室でも文句を言って帰る。/検査前面接：夫婦で来所されて勝手に一緒に入ろうとする人がいる。夫婦間の力関係などで、当事者が拒否できない場合もあるので担当者から個別面接が基本である事を強く説明するが、当事者が一緒にいいですよと言った場合、どうするか迷うときがある。/配偶者がHIVに感染していると判り、定期的に相談にきている人がいる。HIVに感染した本人および配偶者の十分なメンタルサポートを通院医療機関では困難な状況。/相談専用電話が事務所内の通常の机の上にあり、周りに全て聞こえる環境なので、話しづらい。/採血困難な方の場合、保健師についても複数で対応するが、時間がかかり大変苦慮した。/犯罪に巻き込まれたと検査来所。警察における事情聴取で心理的2次被害を受け、我々の相談場面へ入る。適切な相談機関(県内)も紹介できず、帰宅される。/性犯罪の被害者として検査来所したケース。感染症の相談では対応が難しく、精神保健相談(個別)を導入。/予約なしの受付窓口であるため、日により受検者数に変動があり、待ち時間が長くなることもあるにもかかわらず、説明をいくらしてもなかなか理解していただけなかったケースがあった(以後、人数増の際は2診体制をとることとした)。/エイズ検査を受ける理由、不安原因の詳細について話したがない方もおり、保健指導に反映させることができないことがある。/プライベートなことなので、どこまで話を聞き出せば、具体的な相談につながるのか、

対応が難しいと感じる場面がある。/検査前の問診を嫌がられた。/全身に刺青のある相談者で担当者がプレッシャーを感じたケース（相談者を刺激しないような返答に努めた）。/陽性者への告知が初めてだったため、関係機関との調整の上、慎重に対応した。

⑥検査体制への受検者の理解不足・検査体制への相談の対応（10%）

回答例：即日検査での偽陽性者への対応。受検者の不安の増大（イムノクロマト法）。/即日検査にて偽陽性と判断された場合、従来の検査で確認検査を行うが、その結果を待つ間、相談者は不安な毎日を過ごすこととなる。この不安について対応するため定期的に電話等をかけてくる様依頼した。/即日検査の際に1時間以内に結果を伝えたと説明すると心配のため、その時間すべて相談にのって欲しいという方が増えた。/H I V検査結果が偽陽性の時の説明を来所者へいかに理解できるようにしたらよいか。わかりやすい媒体が必要と感じた。/判定保留が何例か続き、受検者への説明の際の反応（大泣き、顔色が青くなる等）に対応が困難で、検査前説明の大切さと本人の理解度を確認（把握）すべきであった。/スクリーニング検査で、偽陽性となり確認検査結果が出るまでの間、不安が強く、複数回に渡り電話相談があったケース。/・H I V抗体検査の結果、確認検査において「判定保留」となった時の説明について。/2. 1ヶ月前に指をケガした際、エイズ患者の体液に触れ感染を心配して検査に来所。現在は結婚し妻がいる。過去にコンドームなしの性行為あり。検査はウインドピリオドの関係で3ヶ月たっている行為について感染の有無を確認するので、今回検査を行い本人が心配な1ヶ月前のことをすぐに検査したいと言い張り、イライラする受検者。抗体検査の限界と抗原検査の説明をし、結局時間をかけて納得したが、検査は受けず2ヶ月後来ると言って帰った。/ウインドウ期内の検査を強く希望する事例（感染機会後1カ月或いは6～8週等）。なお当所は原則として、3カ月後の検査を勧めている。/ウインドウ期について、感染の可能性のある行動から何日経ってから受検すべきか厳密な数字にこだわる事例。12週（84日）と3ヶ月（89～92日）では日数が変わってくる。病院できたときは2ヶ月でよいと言われたなど、個人差を考慮して説明するもなかなか納得してもらえなかった。/検査まで12Wのウインドピリオドを設定しているが、12Wにこだわり、11W6日での結果を受け入れられず、しつこく何日もt e lあり。再検査を勧奨した。/クラミジア陽性と言われたが、すぐ受診したら医師から陰性と言われた。保健所の検査は正確ではないという苦情が市役所へ寄せられた。（1名）/同上の休日検査で、当日はイムノクロマト法での検査のみを行って、その後の検査が必要であれば保健所を紹介する方法をとったが、精神面の負担を考えると、やはり当日P A法までは行う必要があった。/性行為から3ヶ月未満の方へのウインドウ期の説明について。目安にはなると説明し、再検査を勧奨するが、3ヶ月未満で受検した場合、その結果のみで安心してもらっても困るし、不安をあおっても困るし、兼ね合いが難しい。/面接相談：判定保留の説明後、結果までとても待てない。再度、スクリーニング検査をしてほしいとの相談。/H I V即日検査、陽性（要確認検査）となった者への対応。/・ウインドウズピリオド期に検査希望がある方への相談に困ったことがあった。/受検者が「検査の結果が分からなくなったので教えて欲しい」と電話で後日問い合わせしてきたこと（結果は面接で伝えている）。/繰り返し説明しても検査方法を理解してもらえなかった（e x 3ヶ月たってから検査）。/産婦人科にて出産前検診を受け、H I V抗体検査が偽陽性だったケース。確認検査の結果がわかるまでの1週間、毎日相談が続いた（電話・来所相談）。/感染の機会があつて8週間経過していないと真の陰性である事を理解できない。/検査来所時からイ

ライラしている感じのある受検者で、言葉ひとつひとつに敏感になっている。検査の説明をしている時も聞いてはいるが、どこか上の空。偽陽性が出る可能性があることは理解して検査にすすみたい。と対応に苦慮した。

⑦検査リピーターおよびリスク認知のない人への対応 (6%)

回答例：何回も検査に来所する人がいる。予防啓発の指導が入ってないためか？⇒行動変容させる。技術の習得が必要。/真剣に交際している相手との(コンドームなしの)セックスは安全ですよね。何度も風俗で遊んだけれど、今日の検査が陰性だったので、これからも大丈夫ですよね。等。/コンドームの使用が、全く受け入れられなかった。/くり返しHIV検査を受検する人への予防介入が困難。(男性の風俗利用者に多い。)/検査についての説明をする時に、「よくわかっているのだからそんなに詳しく聞く必要はない。」と明らかに受検慣れがしていることを感じる。/話を聞かない方への対応。/心配になった行為に対しての質問・相談が終わると、他の予防啓発の話(他の性感染症に関する話など)をあまり聞いていない。/リピーターは検査を受けることで安心するが、予防行動には結びつかない。/3~4ヶ月おきに検査を受けたいというケースがいた。最初は母子感染が心配で受けたいという理由であったが、その後、理由があいまいであったり、予防啓発を含むカウンセリングの必要はないと言うケースがいた。/「予防法は分かっているけど、風俗へ行きたい。コンドーム無しでsexしたい欲求は止められません。」と涙を流して訴えた男性が来られた。傾聴に努めたに過ぎず、また、危機感を感じて受検する貴方の行動は勇気があることですね、と助言したが、実際はどう対応することがベターなのか困った。/性感染症検査が定期的な健康診断のようになっている人への対応。予防行動へ結びつかない。/何回も検査に来る人の対応について。「安心しました。又きます。」と何回も検査に来ている人の対応について。/リピーター、当たり前のように性交渉後心配といって検査を受けに来る人。予防行動をとれていても不安を訴える人。

⑧外国人への対応 (5%)

回答例：外国人(中国)からの相談で、(相手が)英語も日本語もよくわからないと言われ、かたことの英語でしか話せなくて困った。/外国籍の方からの相談でなかなか言葉が通じなかった。/日本語があまり話せない外国人にクラミジアの説明をするのに困った。/日本の保険証のない方が陽性となり医療機関を紹介し受診をした。その後、帰国して治療をするよう支援をしたが、帰国しないまま連絡がとれなくなった。関係者を通じ連絡をとる努力を続けている。/外国人男性同性愛者で、すでに治療が必要と思われるが、無保険で医療費も払えない。人材派遣会社員で居住地を転々とし、継続支援ができない。/ポルトガル語しか通じない者の来所があった。通訳が付き添ってはいたが、十分な意思疎通ができたのかと思う。/日本語の理解ができない外国人が受検した。/風俗店で働く外国人の方より相談があった際、片言の日本語であったため、コミュニケーションが通じているのか不安になった。/外国人の受検者への対応、外国語での対応が必要となったが、その体制がまだ当HCではできていない。コミュニケーションをとることに苦慮した。/外国人で検査にくる人が増え、通訳が入っても微妙な部分が伝わらない。通訳を確保するのも大変。/来所者が外国人で日本語が話せず、片言の英語で説明をした。しかし、本当に理解してもらえたのか不安であった。

⑨結果を聞きにこない・検査をしない人への対応 (5%)

回答例：確認検査で陽性と判明したが、受診しないと断った事例(男性)。陽性告知時に数時間をかけ、本人の意向に傾聴し、HC側の担当者の率直な気持ちも伝えたが、今後感染す

るような行為はしないので受診しないと主張された。無理に連絡先を聞くこともできず、コンタクトを待っていたが、しばらくしてコンタクトがあり、受診する方向に変容した。/検査を受けるつもりで来所されたが、検査日でないため、検査日時を案内したが、結局検査日には来所しなかったケースが検査希望者中50%（4人）あった。/検査時に告知日程等について調整して、都合が悪くなった時等には受検者より電話連絡をしてもらうことになっているが、告知日になっても来所、電話連絡がなく未告知になっているケースが1件ある。/陽性者が結果説明日に来所しなかったこと（後日電話をかけてきた上で来所された）。/相談受検者が帰郷中に来所され、即日検査が陽性で、確認検査結果が判明するまで1週間必要であり、結果が判る頃には、本人は地元にはいないということで、結果を告知する手段や本人確認方法、また確認検査（+）の場合、いかにして専門病院を受診させるか、その対応に苦慮した。なお、確認検査（-）であった。/性感染症検査の結果を聞きにこない人が3割程度いる。（1W後に来所約束しているが）/陽性者で検査結果を聞きに来所されない方がいる。/少し早く（心配な事があってから1ヶ月位で）検査をした人が3ヶ月たってからの検査に来ない。/保健所での検査で陽性であることが判明し、しばらくは連絡がとれていたが、やがて不通となり、その後の受診状況等も不明なままのケース。（今年度の事例ではありませんが、過去の事例で対応に困ったケースでしたので記載いたしました）/子どもが心配で相談の電話をかけてきて説得して検査を受けさせると言い、それきり何も連絡がない。

⑩同性愛者への対応（4%）

回答例：同性愛者からの相談で、コンドームがうまく装着できずに、肛門性交をしているが、装着してもらうよう言えない男性からの相談。/同性愛者に対する予防啓発について（HIVには感染したくないが、コンドームがつけられない）。/同性愛者の悩み相談。/同性愛の男性で、現在HIV感染者の男性と交際し、性交渉あり（主に口のsex感染が心配で、保健所の検査に2回来所。感染防止の為、性交渉はやめるようすすめるが、彼が好きでやめられないと話され、対応に困った。/同性愛者での性的接触による感染を心配する者が頻回に来所相談。わかっているがやめられない状況をどうしたらよいかという相談内容。/相談事業そのものでは、特に対応に困った事はありませんが、同性愛の方用の啓発パンフがないので（財団等へは要望していますが）困っています。NPO等でいただいたものを使っていますが、すぐなくなります。置いておくと来所の方は持っていかれますし、ゲイの相談として導入がスムーズですので是非作成配布してほしいと願っています。（別の内容ですみません）/男性両性愛者で、看護師をしながら売春（副業）をしている人の相談。/同性愛（男性）者で自分の体を同性愛者（男性）に売って生活している。性交渉の際はコンドームを使用していない。エイズの怖さは知っているようだが、同性愛者に体を売る行為をやめるような意識改革が難しかった。/繰り返しくる同性間性行為者への指導（年に3回来所）。

⑪検査および検査結果の恐怖がある人への対応（4%）

回答例：感染可能性が低い行為であり、抗体検査を勧めるも感染不安が強く、検査をなかなか受け入れられない。/感染不安者から職場に知られたり、家族にも感染しているのではないかと悩んで検査をうける勇気がないとの相談だったが、長時間悩んでいる様子。/医療機関でエイズ検査を受けたが怖くて聞きにいけないと不安を訴えるケース。/血液検査に来所したが、採血をするところまでなかなか決断が下せず、本人の納得等に時間を要し、相談が長びいた。/相談者が緊張のあまり具合が悪くなりベッドで休んでいただいた。特に採血時が多い。/相

談を受け検査を勧めても、「陽性だったら…」という恐怖心が強く、なかなか受検に踏み切ることができない人がいた。/即日検査に来所したが、血液検査を行った後、結果告知まで1人待つことができず、約1時間マンツーマンで、結果が出るまで、本人と時間をともにした。/不安が強い人への対応に困った。(問診の最中にも心配で、携帯のチャット(検査をうけて陽性になった人のサイト)で相談していて、なかなか検査を受ける決心がつかない人がいた)/血液検査に来所したが、検査を受けたい気持ちと、結果が怖いという思いが錯綜し、自宅へ帰ることもできず、相談者と長く面接の時間を要した。

⑫性風俗産業従事者への対応 (4%)

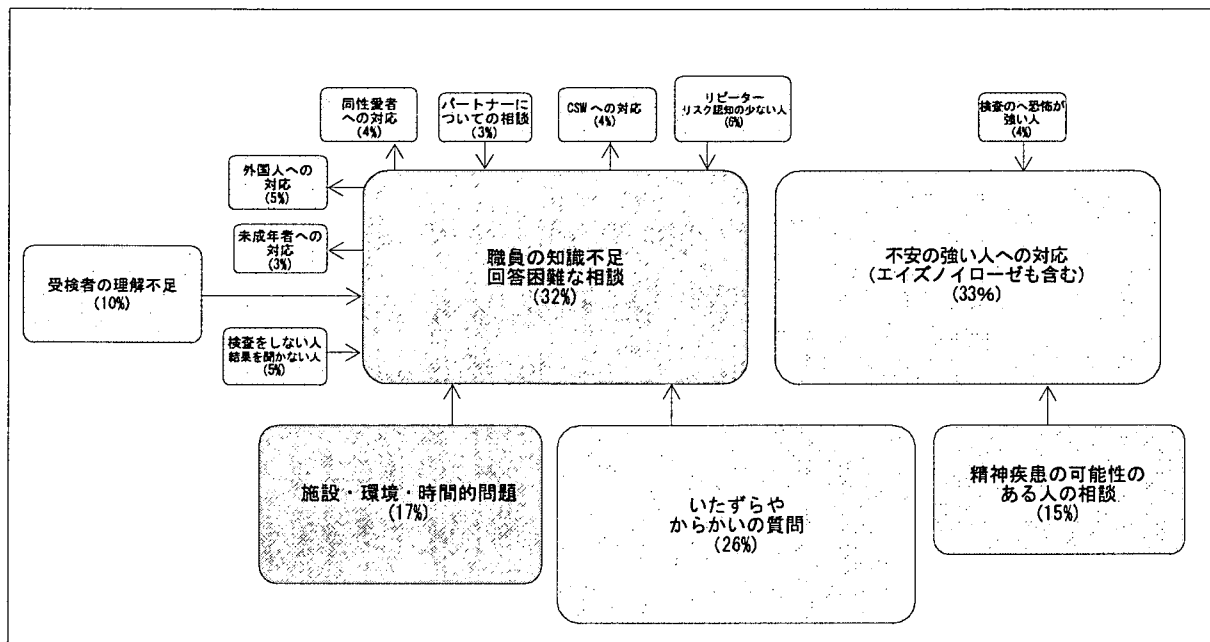
回答例：職業柄予防が困難というケース(女性：風俗業)一予防はできないが、本人の不安が強く、月1回のペースで検査を希望。検査の受け入れ体制、行動変容の限界、メンタル支援について対応に苦慮した。/風俗で働いている女性が来所。本人はクラミジアの検査中。彼は、半年前からペニスより分泌物あり、痛みはないが放置している。受診をすすめても、拒否しているため、自分が受診して、もらった薬をわけてあげたいという相談。/風俗で働いているかもしくはそれに近い女性が、検査目的で反復、定期的来所をしそうな場合、公費検査をしてよいのか否か。/風俗で働く女性から店によってはコンドームをつける事を嫌う店があると聞きました。女性の意志だけではどうしようもない現状(仕事を辞めたくても辞められない)に対し、どのように対応していいか困りました。/風俗で働いている女性への対応について。HIVの感染経路等、説明した後も定期的に受検したいと言われた時など。/同姓愛の性風俗に勤める外国人青年からの不安相談。検査をすすめるが、時間的条件やその他の事情で保健所に来所しない。また、コンドームの使用を拒否する客が多く、感染予防対策が風俗業に行われていない。さらに、どこに所在するのも把握できない場合があった。/風俗店で働いている女性から、オーラルセックスの機会での、口内炎や歯肉出血等がある場合の感染危険度についての質問。/性産業従事者が、お金のためにやっているもので、感染しても仕方がないと言われた時。

⑬未成年者への対応 (3%)

回答例：10代前半の受検者の対応について。事前カウンセリングで本人の様子を見ながら助言したが、2回目に再度受検希望で来所した時。また陽性時の対応、今後のことを考える時、未成年者の考え方について。/出会い系で知り合った不特定多数の男性と性的接触があった10代の受検者に対し予防教育を行ったが、結果的にはその後の性的接触により性感染症に罹患したことが判明した。/明らかに未成年者の受検者はどのように対処したらよいのか。19才で社会人などという場合なら成人と同様の対応でよいと思いますが、明らかに中学生や高校生で親にも告げずに検査を受けに来た場合、各保健所ではどの様に対応しているのでしょうか。先日当保健所でも17才高校生が親には内緒で来所されました。もし陽性だとなったら保護者にも告知しないわけにはいかないことを説明して了承されましたので、採血しました。結果は陰性でした。/中学校(自称)の男性から、女性の月経・エイズの予防法についての相談電話をもらった。中学校の性教育はまだ受けておらず、月経が何かさえもわからない状態であった。中学校の授業で受けていないものを電話で教えてもよいものか、どこまで教えてよいのかわからず、困った。/未成年者の対応(保護者の同意確認の過程)。※未成年者でHIV陽性者が出た場合の治療にむけての支援を考えると対応は難しい。/sexパートナーが10人以上をあげる若者が最近目立つが、踏み込んだ指導が難しい。/中学生の受検

の場合、エイズ検査で陽性になった時のことをどれだけ考えられているか確認してから受検してもらっているが、本当に陽性となった場合、事実を受け止められるのか不安である。

図 2.エイズ相談の対応で困ったこと



(4) エイズ予防普及啓発事業について

◆エイズ関連講演会・研修会の実施状況 (表 20)

各保健所のエイズ関連講演会・研修会（学校での学生向けを除く）の実施状況を調べた（表 20）。エイズ関連講演会・研修会を実施していた施設は 39.0%で 4 割であった。実施頻度を、表 4-2 に示す。全国の施設平均は、年間 2.7 回±3.4 で、年間の講演会/研修会の実施頻度が 4 回を超えるのは、佐賀県（11.5 回/年）、沖縄県（7 回/年）、高知県（7 回/年）、和歌山県（6.3 回/年）、長野県（4.8 回/年）、新潟県（4.6 回/年）、愛知県（4.5 回/年）、神奈川県（4.4 回/年）であった。

表 20. エイズ関連の講演会/研修会（学校での学生向けを除く）実施状況

	施設数	%
実施した	180	39.0
実施しなかった	276	59.9
無回答	5	1.1
合計	461	100.0

◆ 学校でのエイズ啓発（教育）の実施状況 (表 21) (表 22)

各保健所の学校でのエイズ啓発（教育）の実施状況を調べた（表 21）。学校でエイズ啓発（教育）を実施していた施設は 73.3%で 7 割を超えていた。そのうち校種別の実施状況は、高校での実施が 78.7%と 8 割近くに達し、次が中学校で 54.1%と約半数で、専門学校 20.4%、大学 17.2%、小学校 16.6%、短大 5.9%であった（表 22）。都道府県別の一施設あたりの学校における予防啓発事業の実施頻度を表 4-2 に示す

高校でのエイズ啓発実施状況の全国の施設平均は、年間 2.5 回±3.2 で、高校でのエイズ教育の年間実施頻度が 4 回を超えるのは、佐賀県（12.8 回/年）、和歌山県（6.4 回/年）、広島県（4.4 回/年）、北海道（4.2 回/年）、福島県（4.0 回/年）、徳島県（4.0 回/年）であった。

中学校でのエイズ啓発実施状況の全国の施設平均は、年間 2.2 回±8.8 で、中学校でのエイズ教育の年間実施頻度が 4 回を超えるのは、兵庫県（11.3 回/年）、沖縄県（7.7 回/年）、神奈川県（6.3 回/年）、岡山県（6.0 回/年）、島根県（4.5 回/年）であった。

表 21. 学校でのエイズ啓発(教育)の実施状況

	施設数	%
実施した	338	73.3
実施しなかった	119	25.8
無回答	4	0.9
合計	461	100.0

表 22. エイズ啓発(教育)の校種別実施状況 (複数回答)

	小学校		中学校		高等学校		専門学校		短期大学		大学	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
回数	30	53.6	64	35.0	92	34.6	39	56.5	15	75.0	27	46.6
講演もしくは授業	49	87.5	171	93.4	238	89.5	62	89.9	15	75.0	32	55.2
その他	7	12.5	21	11.5	70	26.3	12	17.4	4	20.0	33	56.9
HIV.STI 知識	52	92.9	180	98.4	257	96.6	65	94.2	18	90.0	54	93.1
予防方法	29	51.8	159	86.9	241	90.6	63	91.3	17	85.0	48	82.8
差別偏見防止	45	80.4	137	74.9	180	67.7	41	59.4	13	65.0	36	62.1
合計	56	100.0	183	100.0	266	100.0	69	100.0	20	100.0	58	100.0
学校でのエイズ教育全体の中での割合	16.6		54.1		78.7		20.4		5.9		17.2	

◆エイズ関連イベント・キャンペーンの実施状況 (表 23)

エイズ関連のイベントやキャンペーンの実施状況を尋ねた (表 23)。エイズ関連のイベントやキャンペーンを実施していた施設は 67.7%で約 7 割近くであった。ただし、今年度は、質問項目に、キャンペーンの内容についての質問を入れていなかったため、内容までは把握できなかった。

表 23. エイズ関連イベント・キャンペーンの実施状況

	施設数	%
実施した	312	67.7
実施しなかった	145	31.5
無回答	4	0.9
合計	461	100.0

◆ エイズ/性感染症関連ポスターの配布状況

(表 24) (表 25) (表 26) (表 27) (表 28) (表 29)

- ① **ポスター配布の有無**：エイズ/性感染症関連ポスターの配布状況を尋ねた (表 24)。エイズ/性感染症関連ポスターを配布していた施設は 81.3%で 8 割を超えていた。

表 24. エイズ/性感染症関連ポスター配布の有無

	施設数	%
配布した	375	81.3
配布しなかった	81	17.6
無回答	5	1.1
合計	461	100.0

- ② **ポスターの種類**：ポスターの種類は、3 種類が 26.9%、2 種類が 25.9%、1 種類が 16.5%、4 種類が 14.4%と保健所全体の半数は 2-3 種類のポスターを配布していることが示された (表 25)。

表 25. エイズ/性感染症関連ポスター配布の種類

	施設数	%
1 種類	62	16.5
2 種類	97	25.9
3 種類	101	26.9
4 種類	54	14.4
5 種類	27	7.2
6 種類以上	24	6.4
無回答	10	2.7
合計	375	100.0

- ④ **ポスターの配布枚数**：都道府県別の施設あたりのポスターの配布枚数を、表 4-2 に示す。それによると、ポスター配布枚数の施設あたりの全国平均は 383 枚±2309 で、施設あたりの年間配布枚数が 400 枚を超えたのは、兵庫県 (3099 枚)、大阪府 (2383 枚)、長崎県 (1214 枚)、静岡県 (988 枚)、熊本県 (612 枚)、福井県 (462 枚) であった。
- ⑤ **ポスター配布時期**：ポスターの配布時期を尋ねた (表 26：複数回答)。それによると、11 月が 65.0 で最も多く、12 月が 35.9%、6 月が 28.5%、5 月が 24.6% であった。

表 26. エイズ/性感染症関連ポスター配布時期 (複数回答)

	施設数	%
1 月	5	1.6
2 月	6	1.9
3 月	4	1.3
4 月	6	1.9
5 月	76	24.6
6 月	88	28.5
7 月	9	2.9
8 月	7	2.3
9 月	4	1.3
10 月	25	8.1
11 月	201	65.0
12 月	111	35.9
合計	309	100.0

- ⑥ **ポスター配布場所**：ポスターの配布場所を尋ねた (表 27：複数回答)。その結果、最も多かったのが、役所の掲示空間で 83.1%、次が学校で 58.3%、職場が 41.1%、街頭の公的掲示板が 16.9% であった。

表 27. エイズ/性感染症関連ポスター配布場所 (複数回答)

	施設数	%
学校	217	58.3
職場	153	41.1
役所の掲示空間	309	83.1
街頭の公的掲示板	63	16.9
その他	180	48.4
合計	372	100.0

- ⑦ **ポスターのメッセージ**：配布したポスターのメッセージを尋ねた (表 28：複数回答)。配布したポスターのメッセージは、「検査の情報」が 90.0% で最も多く、次が「予防の必要性」58.8%、「差別偏見の防止」31.2%、「流行の状況」21.1% であった。

表 28. エイズ/性感染症関連ポスターのメッセージ (複数回答)

	施設数	%
流行の状況	78	21.1
予防の必要性	217	58.8
検査の情報	332	90.0
差別偏見の撤廃	115	31.2
その他	55	14.9
合計	369	100.0

- ⑧ **ポスターの入手経路**：ポスターはどのように入手したのかを尋ねた（表 29：複数回答）。それによると、無料配布されたものが 87.8%と最も多く、地方自治体で独自に作成したものが 33.8%、保健所で独自に作成したものが 26.5%であり、9 割近いそのほとんどが無料で配布されたポスターであった。無料配布の配布元は、エイズ予防財団からの無料配布ポスターが 67.6%と最多であった。

表 29. エイズ/性感染症関連ポスターの入手経路（複数回答）

	施設数	%
保健所等で独自に作成したもの	98	26.5
自治体で独自に作成したもの	125	33.8
保健所等で購入したもの	7	1.9
無料配布されたもの	325	87.8
合計	370	100.0

◆ **エイズ/性感染症関連パンフレットの配布状況**
 (表 30) (表 31) (表 32) (表 33) (表 34) (表 35)

- ① **配布の有無**：エイズ/性感染症関連パンフレットの配布状況を尋ねた（表 30）。エイズ/性感染症関連パンフレットを配布していた施設は 83.7%で 8 割を超えていた。

表 30. エイズ/性感染症関連パンフレット配布の有無

	施設数	%
配布した	386	83.7
配布しなかった	69	15.0
無回答	6	1.3
合計	461	100.0

- ② **パンフレットの種類**：パンフレットの種類の施設あたりの全国平均は、5 種類で、種類が 6 種類を超えていた都道府県は、高知県（11.4 種類）、広島県（11.4 種類）、東京都（7.8 種類）、佐賀県（7.5 種類）、静岡県（6.6 種類）、茨城県（6.5 種類）、山形県（6.3 種類）、千葉県（6 種類）であった。

- ③ **パンフレットの対象層**：パンフレットの対象とした層を表 31（複数回答）に示した。最多が一般住民で 81.3%、青少年が 78.2%で、この 2 つを対象としたパンフレットがほとんどであった。滞日外国人を対象としたパンフレットを配布している施設は 8.9%、男性同性愛者を対象としたパンフレットを配布している施設は 5.3%であった。

表 31. エイズ/性感染症関連パンフレット配布の対象層（複数回答）

	施設数	%
一般住民	309	81.3
青少年	297	78.2
男性同性愛者	20	5.3
外国人	34	8.9
その他	39	10.3
合計	380	100.0

④ **パンフレットの配布枚数**：都道府県別の施設あたりのパンフレットの配布枚数を、表 4-2 に示す。それによると、パンフレット配布枚数の施設あたりの全国平均は 5681 枚で、施設あたりの年間配布枚数が 5000 枚を超えたのは、大阪府 (94016 枚)、長野県 (7359 枚)、兵庫県 (6401 枚)、神奈川県 (5838 枚) であった。

⑤ **パンフレット配布時期**：パンフレットの配布時期を尋ねた (表 32：複数回答)。それによると、12 月が 48.3%、11 月が 43.3% で最も多く、6 月が 20.9% であった。

表 32. エイズ/性感染症関連パンフレット配布時期 (複数回答)

	施設数	%
1 月	45	17.1
2 月	19	7.2
3 月	8	3.0
4 月	10	3.8
5 月	23	8.7
6 月	55	20.9
7 月	27	10.3
8 月	15	5.7
9 月	22	8.4
10 月	37	14.1
11 月	114	43.3
12 月	127	48.3
合計	263	100.0

⑥ **パンフレット配布場所**：パンフレットの配布場所を尋ねた (表 33：複数回答)。その結果、最も多かったのが、学校で 73.5%、次が保健所の中で 61.7%、街頭が 36.2%、職場が 20.7% であった。

表 33. エイズ/性感染症関連パンフレット配布場所 (複数回答)

	施設数	%
学校	280	73.5
職場	79	20.7
保健所の中	235	61.7
街頭	138	36.2
その他	216	56.7
合計	381	100.0

- ⑦ **パンフレットのメッセージ**：配布したパンフレットのメッセージを尋ねた（表 34：複数回答）。配布したパンフレットのメッセージのうち 70%を超えていたものは、「検査に関する情報」が 93.1%で最も多く、次が「性感染症に関する情報」86.2%、「エイズの症状」85.2%、「HIV/STI の流行の状況」78.6%であった。

表 34. エイズ/性感染症関連パンフレットのメッセージ（複数回答）

	施設数	%
HIV/STI 流行の状況	297	78.6
HIV/AIDS による症状	322	85.2
性感染症に関する情報	326	86.2
性的ネットワーク	122	32.3
コンドーム	247	65.3
検査に関する情報	352	93.1
治療に関する情報	192	50.8
差別偏見の撤廃	217	57.4
その他	30	7.9
合計	378	100.0

- ⑧ **パンフレットの入手経路**：パンフレットはどのように入手したのかを尋ねた（表 35：複数回答）。それによると、「無料配布されたもの」が 72.0%と最も多く、「保健所等で購入したもの」が 36.9%と 2 番目に多く、「地方自治体で独自に作成したもの」が 35.1%、「保健所で独自に作成したもの」が 20.2%であり、7 割近くが無料で配布されたパンフレットであった。無料配布の配布元は、エイズ予防財団からの無料配布パンフレットが 63.2%と最多であったが、ポスターでは独自に購入は 2%であったのに対し、パンフレットは各自治体等で購入していることが示された。

表 35. エイズ/性感染症関連パンフレットの入手経路（複数回答）

	施設数	%
保健所等で独自に作成したもの	77	20.2
自治体で独自に作成したもの	134	35.1
保健所等で購入したもの	141	36.9
無料配布されたもの	275	72.0
合計	382	100.0

(5) 保健所と地域連携の状況について

◆地域連携の状況 (表 36)

各保健所の地域連携の状況を尋ねた (表 36)。

- ① 自治体の思春期保健担当者との連携：地方自治体の思春期保健担当者と連携した取り組みを実施した施設は、35.1%であった。
 - ② 市町村の教育委員会との連携：市町村の教育委員会と連携した取り組みを実施した施設は、28.4%にとどまった。
 - ③ 地域医療期間との連携：地域医療期間と連携した取り組みを実施した施設は、17.8%であった。
 - ④ 各種市民団体との連携：各種市民団体と連携した取り組みを実施した施設は、21.0%であった。
 - ⑤ 地域の PTA との連携：地域の PTA と連携した取り組みを実施した施設は、11.7%であった。
 - ⑥ 地域の民生委員・児童委員との連携：地域の民生委員・児童委員と連携した取り組みを実施した施設は、3.9%と極めて少数であった。
 - ⑦ 地域の職域との連携：地域の職域と連携した取り組みを実施した施設は、13.0%であった。
- 以上の結果より、各種団体と連携した取り組みは、まだまだあまり実施されていないことが示された。

表 36. 地域連携の状況

	思春期事業		教育委員会		地域医療機関		各種市民団体		地域のPTA		民生委員 児童委員		地域の職域	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
実施した	162	35.1	131	28.4	82	17.8	97	21.0	54	11.7	18	3.9	60	13.0
実施しなかった	285	61.8	323	70.1	373	80.9	358	77.7	401	87.0	438	95.0	395	85.7
無回答	14	3.0	7	1.5	6	1.3	6	1.3	6	1.3	5	1.1	6	1.3
合計	461	100.0	461	100.0	461	100.0	461	100.0	461	100.0	461	100.0	461	100.0